

令和6年度(2024年度)大分大学グローバル感染症研究センター 共同研究公募要項

令和5年(2023年)12月7日
大分大学グローバル感染症研究センター

大分大学グローバル感染症研究センターは、感染症に関する全学的な研究力強化を戦略的に推進し、本学ひいては我が国の感染症研究基盤の強化・充実に資することを目的として、令和3年10月に全国共同利用研究施設として設置されました。

本センターでは、国内外の研究機関と連携しながら、病原微生物による感染病態の解析やゲノム解析、マイクロバイーム研究、さらに本学の強みである創薬も含めた基礎研究から臨床までの一連の領域をシームレスに連携させることにより、感染症に関する国際的かつ地域中核での研究プラットフォームの構築を目指しており、この度、以下の要領で共同研究事業を公募します。

1. 公募概要

(1) 募集区分

A) 共同研究課題及びB) シーズ発掘課題の2つの区分で募集を行います。いずれも、本学が有する有形・無形の資産を活用して各区分で定めるテーマに沿った研究課題を申請者(代表研究者)が設定し、研究代表者及び研究分担者が本センター担当教員と協力して実施する共同研究を募集します。

A) 共同研究課題(申請上限額:100万円/年・件)

本要項5~11ページに掲げる本センターの研究テーマについて、センターの教員と協力して実施するもの。特に、国際的・学術的に重要な研究領域で、本センターが戦略的に実施するものについては、重点的に支援します。

研究期間:最長3年間(各年度の公募時に継続申請が必要)

B) シーズ発掘課題(申請上限額:30万円/年・件)

感染症に関する研究の裾野を広げ、共同研究を促進し、研究ネットワークの拡大を図るために、センター教員と連携し、新たな着想に基づく研究課題を実施するもの。

テーマについては各教員と相談し、決定してください。

研究期間:最長2年間(2年目の公募時に継続申請が必要)

※1 過年度からの継続課題の場合、過年度と同じ研究課題での応募となります。

※2 採択された場合、配分額は原則として令和7年(2025年)2月末日までに執行してください。

(2) 申請資格者

国内外の大学教員、その他研究機関に所属する研究者、これらと同等の研究能力を有すると認める者で、各研究課題に関する研究及び関連領域の研究に従事している者として。特に若手研究者、女性研究者及び外国人研究者のPIとしての参画を奨励します。なお、大学院生は代表者として応募することはできませんが、研究分担者として研究に参加することは可能です。また、学部生の研究参加については、別途御相談ください。

(3) 経費及び配分額への加算

申請対象となる経費の費目は、「旅費」及び「研究費」です。採択された研究代表者への予算配分は行わず、本センターにおいてすべての経理を行います。詳細は、別紙1「大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費の取扱について」を御確認ください。

また、配分額への加算について、各共同研究課題の研究代表者が以下のいずれかに該当する場合に、応募状況と審査結果を踏まえ、1 課題あたり最大 30 万円を予算の範囲内で加算する予定です。

- ・海外機関に所属する場合
- ・若手研究者（令和 6 年 4 月 1 日現在において 39 歳以下）の場合
- ・女性研究者の場合

※共同研究課題申請書の「12 所要経費」は、加算額を含めず記入してください。

2. 応募方法

(1) 申請書類

様式 1 令和 6 年度（2024 年度）大分大学グローバル感染症研究センター共同研究課題申請書

様式 2 令和 5 年度（2023 年度）大分大学グローバル感染症研究センター共同研究成果報告書（※）

※令和 5 年度以前からの継続申請の場合及び令和 5 年度で継続課題が終了し令和 6 年度に新規申請を行う場合は、様式 2 の成果報告書を現時点で作成のうえ提出してください。最終版は、年度終了時（提出期限は令和 6 年 4 月 30 日）に提出願います。

経理様式 1 検収権限委託に係る連絡票

本共同研究費で購入した物品等を、申請者の所属機関に直接納品するため、本学の規程に定める検収権限の委託手続きが必要となります。（別紙 3 共同研究費執行手続きの流れを御確認ください）共同研究の採択が決定次第、検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関する連絡をします。事前に所属機関の検収担当部局についてご確認ください。（※）

※前回まで本連絡票は採択決定後に提出いただいておりますが、採択後早期に予算執行を可能とするために、今回より申請時に提出いただくようにしております。

様式 1 については、本センター担当教員と、研究課題、研究計画、必要経費、来学予定期間等について事前に十分に連携をとった上で作成ください。研究分担者にも事前に承諾を得ていただくことが必要です。また、今回より本センター担当教員からのコメント欄を追加しましたので、本センター担当教員に本共同研究に関するコメントの記入を依頼してください。

提出にあたっては、PDF ファイルに変換したものを添付の上、メールにて下記提出先に送付ください。（※全体として 4 ページに収まるように作成願います。）
担当より受領確認を差し上げますので、返信を御確認ください。

【申請書提出・問合せ先】

大分大学グローバル感染症研究センター
〒879-5593 大分県由布市挾間町医大ヶ丘 1 丁目 1 番地
E-mail: glocal@oita-u.ac.jp
Tel: 097-586-5444
当センターホームページ: <https://www.oita-glocal.jp/>

(2) 申請書提出期限

令和 6 年 2 月 7 日（水）17:00 必着 期限厳守

(3) 採否

本センター共同研究委員会において、以下の項目について審査し、委員会の議を経て、センター長が採否を決定し、申請者へ通知します。なお、審査においては、応募状況や課題の性質、継続課題の場合は前年度の成果報告内容、個々の計画への適切な配分額を審査し、採択額を決定するため、採択額が申請額より減額となる場合があります。また、審査点数が著しく低い課題については不採択とさせていただきます。

採否は、令和6年4月初旬までに申請者へ通知する予定です。

採択された研究課題については、原則として、研究代表者の氏名と所属、研究課題名、研究成果など、本センターのホームページや年報などで公開します。

(参考) 審査項目：①研究課題の学術的重要性・妥当性 ②研究計画・方法の妥当性 ③研究課題の独創性・革新性 ④本センターの利活用 ⑤国内外や地域への貢献 ⑥経費の使途の妥当性

3. 採択後の研究代表者の責務等

(1) 研究成果報告

研究代表者は、各年度の研究期間終了後30日以内(最終期限：各年度4月30日まで)に「共同研究成果報告書」(様式2)を提出してください。なお、本共同研究による成果は、原則として、本センターのホームページや年報等で公開します。また、評価のために成果報告会で発表していただく場合があります。

(2) 本研究による成果の公表

本共同研究による成果は、原則として、本学担当教員との共著での学術論文掲載や学会発表(プロシーディングが有るもの)を行っていただきます。その際は、必ず本共同研究による旨を明記してください。また、必ず謝辞に下記の記載を行ってください。

【和文】 例1. 本研究(の一部)は大分大学グローバル感染症研究センターを利用して行った。(#####)

例2. 本研究(の一部)は大分大学グローバル感染症研究センターの支援により行った。(#####)

【英文】 例1. This work was (partly) conducted by the joint research program of the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases, Oita University (#####)

例2. This work was (partly) supported by the Research Center for GLOBAL and LOCAL Infectious Diseases, Oita University(#####)

注) #には採択通知による課題番号を記入してください。

なお、応募者が論文や学会などで研究成果を発表する場合は、First Author や Corresponding Author であるかどうかにかかわらず、掲載誌等にアクセプトされた時点で本センターにメール等で御一報ください。掲載・発表後、発表論文の別刷1部またはPDFを提出してください。

共同研究期間終了後、研究成果について追跡調査の連絡をさせていただくことがあります。

また、提出された成果については、センター発行の年報、ホームページ等に掲載するほか、マスメディア等での広報を行う場合があります。広報に当たっては、事前に情報公開の可否について照会した上で調整いたします。

(3) 人権の保護及び法令等の遵守

本共同研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合は、講じる対策と措置を、(様式 1) 共同研究課題申請書の「8. 人権の保護及び法令等の遵守への対応」に記載してください。個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

(4) 知的財産の取扱いについて

本共同研究によって知的財産を創出した場合は、出願等を行う前に本センター共同研究教員及び研究分担者へ連絡してください。併せて、所属機関の知財担当部署へ連絡してください。権利の持ち分、出願手続き等については、協議の上決定します。

4. その他

(1) 情報開示

受理した申請書は、外部から情報開示を求められた場合、個人の特定が可能な情報を除き、開示することがあります。研究遂行上、開示されたくない箇所（独創性を含む記載等）はアンダーライン等でマークして、申請書の余白にその旨記してください。開示時に考慮します。

(2) 個人情報等

本募集に関して取得した個人情報等については、国立大学法人大分大学の個人情報保護ポリシー等に準拠し、その保護に努めます。ポリシー等の内容は、大分大学のウェブページ (<https://www.oita-u.ac.jp/13joho/kojin-policy.html>) を御覧ください。

本公募の実施については、本学の令和6年度予算の成立を前提としています。予算成立の状況により、内容に変更があり得ることを予め御承知おきください。

本センター教員の研究分野・研究活動等と連絡先

教員氏名	研究分野・研究テーマ・研究内容等
<p>西園 晃 八尋 隆明 君付 和範</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: a24zono@oita-u.ac.jp (西園)</p> <p>takaaki-816@oita-u.ac.jp (八尋)</p> <p>k-kimitsuki@oita-u.ac.jp (君付)</p>	<p>研究分野：ウイルス学、感染免疫学、渡航医学</p> <p>研究テーマ：新興・再興ウイルス感染 特に狂犬病に関する総合的研究</p> <p>キーワード：狂犬病（病原性発現機構、宿主免疫応答の解析）、顧みられない熱帯病（NTDs）、渡航医学、狂犬病、神経向性ウイルス感染症</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 狂犬病ウイルス、重症熱性血小板減少症候群ウイルス（SFTSV）など、ヒトと動物共通の新興・再興感染症ウイルスを中心とした診断法、ワクチン、治療法の開発や流行地域での疫学調査を実施している。野外株狂犬病ウイルスを用いた感染実験を行える国内ほぼ唯一の施設であり、特に <i>in vivo</i> イメージングによる中枢神経系における病原性発現機構の解析、感染時の宿主免疫応答に関する研究を実施している。</p> <p>2) 海外渡航医療に関する臨床研究や新型コロナウイルス（COVID-19）の血清疫学調査を主とする臨床的研究も実施している。</p>
<p>山岡 吉生</p> <p>TEL: 097-586-5742</p> <p>E-mail: yyamaoka@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：消化管感染症、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ピロリ菌感染症</p> <p>キーワード：薬剤耐性菌、ピロリ菌ゲノム解析、消化管細菌叢ゲノム解析</p> <hr/> <p>研究内容：ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ菌）などの病原性細菌には、よく知られた病原因子や薬剤耐性因子が存在しているが、未だ判明していない病原因子や薬剤耐性因子も存在している。これらを解明するためには、次世代シーケンサーを用いた全ゲノム解析が必要で、本学では、バクテリアゲノムワイド関連解析（GWAS）、さらには遺伝子欠損株作出などによる機能解析を行っている。また、現在世界約30か国から集めた胃粘膜検体やピロリ菌を保有しており、胃内の細菌叢の遺伝子の地域による違いがどのように病原性などに関与しているかを研究している。</p>

<p>衛藤 剛</p> <p>TEL: 097-586-5843</p> <p>E-mail: teto@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：ウイルス癌治療応用工学、消化器外科、低侵襲治療</p> <p>研究テーマ：①制限増殖型ウイルスを用いた新規がん診断・治療開発、②腸内細菌叢と発がん・がん治療、③抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌に対する光線治療の開発</p> <p>キーワード：制限増殖型ウイルス、腸内細菌叢、抗菌薬耐性ヘリコバクターピロリ菌、光線治療、低侵襲治療</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>① 制限増殖型ウイルスはがん細胞で選択的に増殖し細胞溶解を引き起こす特徴があり、これまで主に消化器がんに対して制限増殖型ウイルス（レオウイルス）の抗腫瘍効果を研究してきた。一方、生体内での抗腫瘍効果、増殖安定性および有害事象の検討が課題であり、臨床応用に向けた研究開発を行っている。</p> <p>② 腸内細菌叢の病態解明により、宿主の腫瘍免疫や発がんそのものを制御する可能性についての研究を行う。</p> <p>③ ヘリコバクターピロリ菌に対しては抗菌薬耐性菌の出現が世界的にも喫緊の課題である。耐性菌を含めたピロリ菌の除菌を目的とした新しい光線療法を開発する。</p>
<p>三室 仁美 三好 智博</p> <p>TEL: 097-586-5630</p> <p>E-mail: mimuro@oita-u.ac.jp (三室) miyoshit@oita-u.ac.jp (三好)</p>	<p>研究分野：細菌感染生物学</p> <p>研究テーマ：粘膜感染病原細菌の感染機構解明</p> <p>キーワード：ピロリ菌、赤痢菌、口腔内細菌、消化管病原細菌、病原性発現機構、宿主応答、薬剤耐性、VBNC</p> <hr/> <p>研究内容：ピロリ菌や腸管病原性大腸菌などの消化管感染病原細菌に関し、感染から発症までの間に菌体因子と相互作用する宿主細胞群や宿主因子群の全容の解明に取り組んでいる。動物感染モデルとシングルセル解析設備、ゲノム解析を利用した、病原細菌感染の病態制御に関わる細胞群や ncRNA、タンパク質、糖鎖、脂質等因子群の同定、および検査法・治療法開発を実施している。さらに、消化管粘膜感染病原細菌の薬剤耐性菌対策に関連研究、Viable but not culturable (VBNC)に関する研究、病原細菌のフェージに関する研究、病原細菌の感染成立における常在細菌叢の役割を解明する研究を実施している。</p>

<p>河本 聡志</p> <p>TEL: 097-586-5455</p> <p>E-mail: satoshik@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：ウイルス学、分子疫学</p> <p>研究テーマ：ロタウイルス、下痢症ウイルス、新興・再興感染症</p> <p>キーワード：リバーシジェネティクス、増殖・病原性発現機構、ワクチン・ベクター、次世代シーケンサー、ワンヘルス</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ロタウイルスのリバーシジェネティクス系を用いた解析（増殖・病原性の基礎的研究、ワクチン・ベクター開発）</p> <p>2) ウイルスの分子疫学（分子疫学研究による流行株の性状解析）</p> <p>3) 分子生物学的／ウイルス学的手法に基づく新興・再興感染症の研究</p>
<p>内田 宅郎</p> <p>TEL: 097-586-6193</p> <p>E-mail: tuchida@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：肝臓学、ウイルス性肝炎</p> <p>研究テーマ：肝疾患の病態解明</p> <p>キーワード：肝炎、肝細胞癌、HBV、HCV、非アルコール性脂肪性肝疾患、NAFLD、NASH、肝硬変</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>肝炎ウイルスの感染～肝炎、肝癌発生に関わるウイルス因子と宿主因子の解明を目指し、動物モデルや培養技術を利用して HBV 感染が肝細胞に与える影響の解析やゲノム編集を用いた肝疾患モデルの創出を行う。また、臨床データやサンプルを用いた研究と基礎研究の融合を図り、肝疾患の病態解明および治療アプローチの開発、バイオマーカーの探索を行う。</p>

<p>カーン シャキル</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: sakirul@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野： ウイルス学、感染症疫学、神経感染症学</p> <p>研究テーマ： 新興・再興ウイルス感染症 (ラブドウイルス、フラビウイルス、新型コロナウイルス等)</p> <p>キーワード： 分子疫学、ウイルス性脳炎、既存薬再開発、ワンヘルス</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ラブドウイルス (狂犬病ウイルス・大分ウイルス 296/1972) の分子病態に関する研究</p> <p>2) SARS-CoV-2 感染患者におけるデング熱重症化メカニズムに関する基礎・臨床的研究</p> <p>3) ウイルス感染症に対する抗ウイルス薬/免疫調節物質を用いたドリック・リパーポージング法/治療法に関する前臨床・臨床的研究</p>
<p>平松 和史</p> <p>TEL: 097-586-5406</p> <p>E-mail: hiramats@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野： 感染症内科学、感染制御学、呼吸器感染症内科学</p> <p>研究テーマ： 緑膿菌感染症、薬剤耐性菌感染症</p> <p>キーワード： 薬剤耐性菌、緑膿菌、院内感染症、抗菌薬に依存しない感染症治療</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 多剤耐性緑膿菌やカルバペネム耐性腸内細菌科細菌、バンコマイシン耐性腸球菌など各種薬剤耐性菌の耐性機序や薬剤耐性獲得機構を明らかにする研究を実施している。</p> <p>2) 病院内での伝播経路や環境、動物などでの耐性菌の広がりを、分子生物学的技法を用いて検討している。</p> <p>3) 薬剤耐性菌に対する新しい治療法、治療薬の開発や抗菌薬に依存しない感染症の治療法や予防法に関する検討を行っている。</p>

<p>上村 尚人</p> <p>TEL: 097-586-5952</p> <p>E-mail: uemura@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：臨床薬理学および薬物治療薬、臨床薬効評価、早期臨床開発 研究テーマ：感染症を含む難治性疾患の新規治療薬、ワクチンの研究開発</p> <p>キーワード：ウイルス感染症、顧みられない熱帯病（NTDs）、トランスレーショナルサイエンス、ワクチン、抗ウイルス薬、非臨床試験、臨床開発</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 新興・再興感染症、特に新型コロナウイルスやインフルエンザを含む病原性 RNA ウイルスに対して有効な抗ウイルス薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。</p> <p>2) 狂犬病をはじめとした、顧みられない熱帯病(neglected tropical diseases: NTDs) 治療薬の非臨床・臨床開発研究を実施している。</p>
<p>緒方 正男</p> <p>TEL: 097-586-6275</p> <p>E-mail: mogata@oita-u.ac.jp</p>	<p>研究分野：血液内科学、造血幹細胞移植、ウイルス感染症 研究テーマ：免疫不全患者におけるウイルス感染症の解明とその制御法の確立</p> <p>キーワード：HHV-6 感染メカニズムの解明、免疫不全関連ウイルス感染症の克服</p> <hr/> <p>研究内容：同種造血幹細胞移植などに伴う免疫不全は多種多様なウイルス感染症などの発症に関連する。その早期診断は困難であり、治療薬の選択も限られている。免疫不全患者における種々のウイルス感染症やトキソプラズマ感染症の診断や治療法の開発に取り組んでいる。特にヒトヘルペスウイルス 6 による脳炎の病態、および治療・予防法の確立に繋がる研究を実施している。</p>

<p>小林 隆志</p> <p>TEL: 097-586-5700</p> <p>E-mail: kansen@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：免疫学、シグナル伝達、寄生虫学、ウイルス学</p> <p>研究テーマ：炎症の免疫制御機構、アルボウイルス、寄生虫に対する免疫応答</p> <p>キーワード：宿主免疫応答、病原性因子と病原性発現機構、感染防御のイメージング、遺伝子組換えマウス、実験用病原体</p> <hr/> <p>研究内容：蚊媒介性ウイルス（ジカウイルス、チクングニアウイルス）、腸内細菌（<i>Citrobacter rodentium</i>）、寄生虫（トキソプラズマ、リーシュマニア、アニサキス）を中心とした病原性微生物への感染により誘導される宿主免疫応答に焦点を当て、疾患が引き起こされる発生病序の解明に取り組んでいる。特に、免疫応答に関する遺伝子の変異マウスを用いた生体レベルでの感染免疫応答の解析に加え、分子細胞レベルでの解析も行い宿主の免疫応答を総合的に理解する。一方、病原性を規定する微生物側の因子の同定を試みることで、微生物の感染から病態発症に至る機序の解明も進める。さらに、ライトシート蛍光顕微鏡を用いた感染防御のイメージングを試み、感染免疫応答の包括的理解を目指す。</p>
<p>一二三 恵美</p> <p>TEL: 097-554-6003</p> <p>E-mail: e-hifumi@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：生命科学、 生物工学、抗体工学</p> <p>研究テーマ：新規医薬品開発を目指した抗体酵素研究</p> <p>キーワード：抗体酵素、抗体鎖、抗ウイルス作用</p> <hr/> <p>研究内容：近年の分子標的薬、中でも抗体医薬品の発展は目覚ましい。将来、抗体が酵素作用をもって抗原を分解できればさらなる高付加価値が生まれる。最近、抗体の超可変領域内に、ある変異を導入する事で抗体に酵素作用を持たせる新手法を見出した。この手法をベースにして、インフルエンザウイルスや新型コロナウイルスの保存領域を標的として、感染能を消失させる抗体酵素の作製を進めている。これにより、ウイルスに変異が生じても適切に対応出来る新型医薬・予防薬の開発を行うと共に、本手法の更なる技術展開を図る。</p>

<p>伊波 英克</p> <p>TEL: 097-586-5712</p> <p>E-mail: hiha@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：分子腫瘍学・免疫生物学</p> <p>研究テーマ：成人 T 細胞白血病 (ATL) の新規診療技術の開発、HTLV-1/STLV の分子疫学調査</p> <p>キーワード：ATL 発症危険度、バイオマーカー、分子標的治療、HTLV-1/STLV-1 分子疫学的・分子進化的解析</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) ヒトレトロウイルス (HTLV-1) の感染で発症する難治性の血液腫瘍成人 T 細胞白血病 T 細胞白血病 (ATL) の診療効果を改善する新規バイオマーカーの同定と分子標的薬を活用した診療技術開発。</p> <p>2) ヒト (HTLV-1) / 霊長類 (STLV) レトロウイルスの分子疫学調査。特に東南アジア島嶼域とオーストラリアに偏在する HTLV-1-C 亜種と類縁 STLV の疫学調査。</p>
<p>小宮 幸作</p> <p>TEL: 097-586-5804</p> <p>E-mail: komiyakh1@oita- u. ac. jp</p>	<p>研究分野：呼吸器内科、呼吸器感染症</p> <p>研究テーマ：抗酸菌感染症、抗菌薬適正使用</p> <p>キーワード：肺結核及び非結核性抗酸菌症の病態・診断・治療、抗菌薬適正使用</p> <hr/> <p>研究内容：</p> <p>1) 世界的にも肺結核に罹患する世代に変化がみられており、それらを鑑みた肺結核の病態、さらには新たな診断および治療に関する研究を実施している。</p> <p>2) 非結核性抗酸菌症は近年増加傾向にあり、希少菌を含め感染拡大に関する機序は明らかにされていない。さらには、従来ヒト-ヒト感染はしないとされていたものも、その可能性を示す報告が散見されている。非結核性抗酸菌感染における病態解明に関連する研究を実施している。</p>

<主要な設備>

	機器名称	メーカー名	型番	主な用途	※利用料金 (学外者)
1	ライトシート 蛍光顕微鏡	Zeiss	Lightsheet 7	生細胞イメージング、透明化処理した器官等のイメージング	1時間 5,000円
2	共焦点レーザー 顕微鏡	Olympus	FV3000- L4H2-BD-3	生細胞・組織のイメージングやタイムラプスイメージング	設定準備中
3	リアルタイム PCR システム	Roche Diagnostics	LightCycler 96	PCR での DNA 増幅量をリアルタイムでモニターして解析	1 検体 2,000円
4	次世代シーケンサー (Long Read)	Oxford Nanopore Technologies	GridION X5	1 度に最大 5 検体までラン可能、塩基配列精度の高いロングリード	設定準備中
5	次世代シーケンサー (Short Read)	Illumina	iSeq 100	ショートリード長のシーケンス	1 検体 5,000円
6	シングルセル 解析装置	10x Genomics	Chromium iX	数百～数万個の細胞のシングルセルトランスクリプトーム解析	1 検体 9,500円
7	全自動キャピラリー泳動装置	QIAGEN	QIAxcel Advanced System	全自動マルチキャピラリーDNA/RNA 電気泳動装置	設定準備中
8	生体分子間相互作用解析システム	Sartorius	Octet RED96e Systems	96well plate でのカイネティクス解析、定量、アフィニティ解析	設定準備中

※グローバル感染症研究センターの構成員が実施するセンターの研究（本公募による共同研究を含む）に利用する場合は、利用料金の半分が免除となります。

<主に取り扱いができる病原体>

細菌：ピロリ菌、赤痢菌、(結核菌)

ウイルス：狂犬病ウイルス、SFTS ウイルス、ロタウイルス、レオウイルス、B 型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、D 型肝炎ウイルス、蚊媒介ウイルス (デングウイルス、ジカウイルス、チクングニアウイルス)

寄生虫：トキソプラズマ、リーシュマニア

大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費の取扱について

1. 所要経費の取扱

- (1) 本共同研究費は、本センターまでの旅費や、当該研究課題に使用する消耗品の購入等に充てる費用となります。
- (2) 共同研究に必要な経費は、予算の範囲内において本センターから支出します。

2. 支出できる範囲

■旅費

- (1) 共同研究推進のため、共同利用・共同研究を目的とした本センターへの出張を1回以上計画してください。
- (2) 本共同研究の成果を学会で発表する際の旅費の計上は可能です。単なる学会参加の旅費は計上できません。
- (3) 研究代表者、研究分担者以外の旅費を支出することはできません。
- (4) 本センター担当教員の旅費を支出することはできません。
- (5) 旅費については、国立大学法人大分大学旅費規程に基づき算出し、精算払（銀行振込）を原則とします。
- (6) 本センターへの出張における交通費については、研究代表者及び研究分担者の勤務先所在地（または居住地のいずれか近いほう）から本センター間の移動について支給対象となります。

■研究費

(1) 消耗品

消耗品とは、本センターとの共同研究に直接使用するもので、単価10万円未満の物品が該当します。単価10万円以上の物品であっても、当該共同研究を遂行するために必要不可欠なソフトウェアや、およそ1年以内に消耗する物品（試薬等）については消耗品に該当します。ただし、以下の(a)～(d)に掲げるものは除きます。

- (a) 各所属機関で整備すべき設備・備品（事務机、椅子、本棚、実験台等）
- (b) 汎用的な事務機器（パソコン、プリンター等）
- (c) 金券、タブレット端末、デジタルカメラ等の換金性の高い物品
- (d) 書籍

(2) 印刷費

共同研究によるサポートを受けた旨を明記したものに限り、別刷代・投稿料も可能です。（年度内に納品できるものに限りです。）

(3) 役務費

英文校正費用、受託解析費用、郵送料、学会参加費（本研究の成果を発表する場合に限る）が対象となります。

3. 検収権限の委託について

本共同研究費で購入する物品等を申請者の所属機関に直接納品するため、本学の規程に定める「検収権限の委託の手続き」が必要となります。※別紙2（共同研究費執行手続きの流れ）を御確認ください。検収権限の委託に関して、本学の経理担当者から手続きに関する御連絡をさせていただきますので、（経理様式1）により貴機関の検収御担当部局をお知らせくださるようお願いします。

なお、貴機関の検収体制確認の結果、検収権限の委託ができない場合は、その旨御連絡いたします。

採択後、速やかな研究開始・経費執行を行うため、申請者所属機関の検収体制について事前の御確認をお願いします。

4. 研究費執行の流れ

本共同研究経費については、申請者所属機関への予算配分（配分先機関で予算執行すること）を想定していません。そのため、以下の流れで執行していただくこととなります。※別紙2（共同研究費執行手続きの流れ）も併せて御確認ください。

例) 消耗品の購入

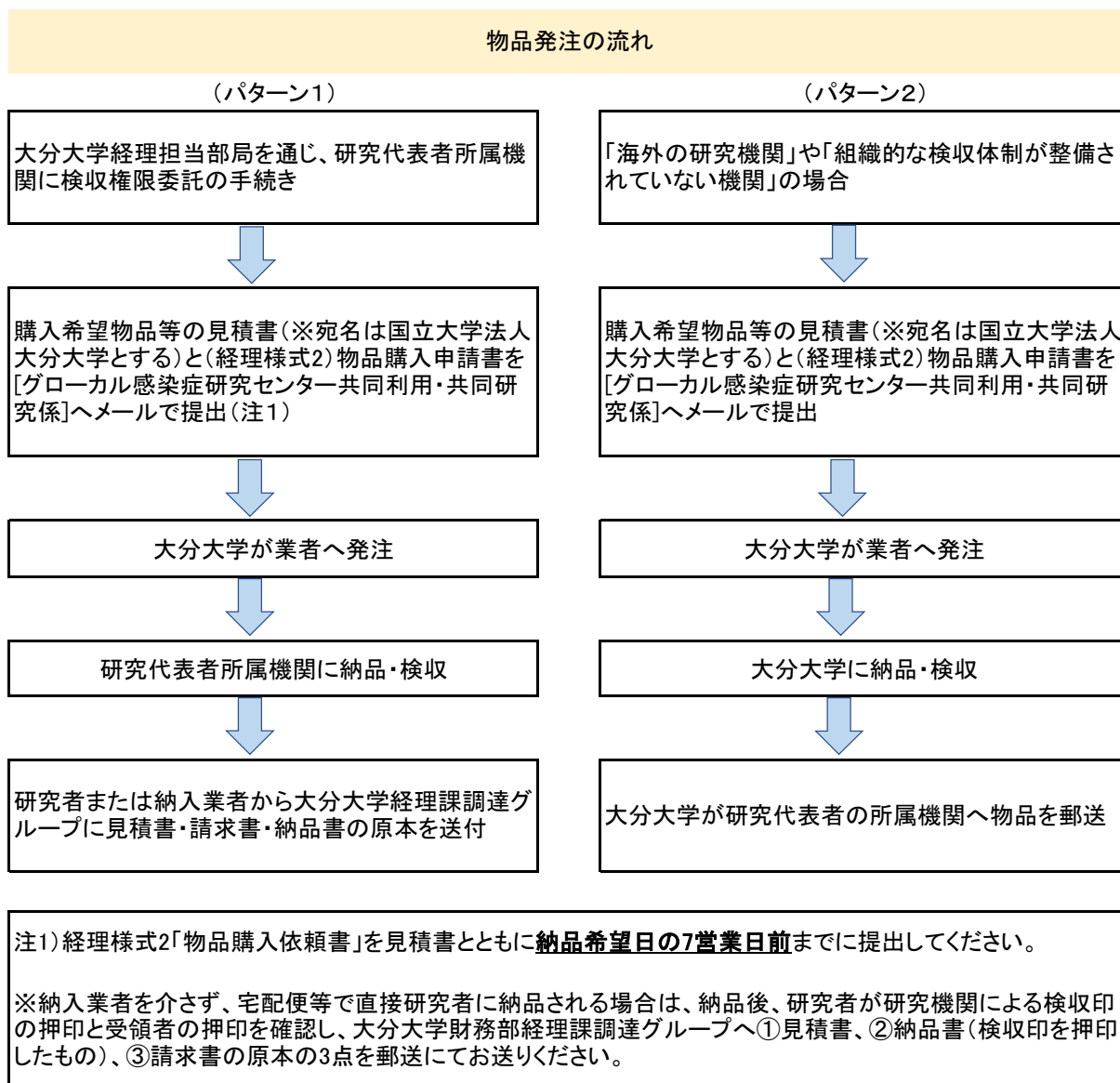
- 1) 購入予定物品の物品購入等申請書（経理様式2）と見積書を、グローバル感染症研究センターへお送りください。購入にあたっては、納品までに時間がかかる場合がありますので、日程に余裕をもって御連絡ください。
(送付先メールアドレス：glocal@oita-u.ac.jp)
- 2) 本学経理課調達グループから業者へ発注を行います。
- 3) 指定の場所へ納品がありましたら、各機関で定める手続きに沿って、検収をお願いします。なお、各機関での検収にあたっては、あらかじめ手続き（検収権限の委託）を経しておく必要があります。
- 4) 研究者または納入業者から本学経理課調達グループへ、見積書・納品書・請求書の原本を郵送にてお送りください。
※納入業者を介さず、宅配便等で直接研究者に納品される場合は、納品後、研究者が研究機関による検収印の押印と受領者の押印を確認し、見積書・納品書（検収印を押印したもの）・請求書の原本の3点を本学経理課調達グループへ、郵送にてお送りください。
- 5) 本学から納入業者へ支払いを行います（納入月の翌月払）

※令和6年度においては、原則として令和7年（2025年）2月末日までに経費執行してください。

【見積書・納品書・請求書の提出先】

〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地
大分大学財務部経理課調達グループ

【大分大学グローバル感染症研究センター共同研究費 執行手続きの流れ】



※円滑な研究実施のために、検収権限委託手続きへの御協力をお願いいたします。

出張手続きの流れ

出張旅費申請書(経理様式3)を〔グローバル感染症研究センター 共同利用・共同研究係〕へメールで提出



大分大学で旅行依頼書を作成



研究代表者等が出張



出張の際、出張者は旅費の支払いに必要な書類を大分大学に提出



大分大学が出張者に旅費支払い(口座振込)

【メール送付先 : glocal@oita-u.ac.jp】

【出張前】

①(経理様式3)出張旅費申請書を、出発日の**7営業日前までに**、グローバル感染症研究センター共同利用・共同研究係へ提出してください。

【出張当日】

②旅費精算のため、下記書類等を提出してください。

- 1) 航空機利用の場合(バック旅行を含む)、航空機に搭乗したことが証明できるもの(搭乗券、半券、保安検査場通過の際に発行されるレシート状のもの、航空会社が発行する搭乗証明書のいずれか1つ。ただし、モバイル搭乗券は無効)
- 2) 領収書または支払を証明する資料
※宿泊費・日当は、本学の規定に基づき定額を支給するため、宿泊に係る領収書は不要です。
- 3) 口座振込依頼書(押印済の本紙)

③本学作成の旅行依頼書に、印鑑またはサインをお願いいたします。

【本学以外への出張の場合】

②の書類に追加して、用務遂行を確認できる証拠書類をご提出ください。

- ・学会や会議等の出張の場合は、当日配布されたプログラムの写し等の資料
- ・現地調査やインタビュー調査、研究打ち合わせ、資料収集等の出張の場合は、用務先での写真